

令和8年度 多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画一覧表
(観光振興連携活動)

NO	①事業期間	②連携組織の名称	③構成自治体等	⑤事業名称	⑥交付申請額	⑦事業内容
1	R8～R12 (5年間) 1年目	多摩湖ライドツアー実行委員会	東大和市、西東京市、小平市、東村山市	多摩湖ライドツアー2026	5,000,000	<p>【目的】</p> <p>① 地域の魅力発信 狭山・境緑道や多摩湖周辺の魅力を発信する。</p> <p>② 健康増進と自転車利用の推進 子どもから大人まで楽しめる機会を通じ、運動習慣と自転車利用を促す。</p> <p>③ 観光資源としての広域活用 市域を越えた広域ルートを観光資源として活用し、域内回遊性を高めるきっかけとする。</p> <p>【内容】</p> <p>・4市の魅力発掘・発信 自転車競技のプロ選手等と呼び、「自転車の楽しみ方」等のトークショーを実施する。その後グループに分かれて景色を見ながらサイクリングを行い、多摩湖周遊道路沿いで食事を行なうなど、緑道沿いの観光資源を活かして地域の活性化を図る。なお、緑道沿いの公園等の公共施設でPRブース出展や、都立狭山公園でのイベントの実施を併せて計画している。</p> <p>【方法】</p> <p>実施場所: 4市(東大和市、小平市、東村山市、西東京市)にまたがる狭山・境緑道及び多摩湖自転車道と自転車道沿いの公園等 対象者: 4市在住の住民(主にファミリー層や、若者、子どもを対象) 参加予定人数: 300人</p> <p>【成果目標】</p> <p>参加者が、サイクリングを身近に感じると共に、地域の観光地を発掘・発信してもらうことを目標とする。 事業実施後にアンケートを実施し、また参加したいという方を50%以上とする。アンケート結果を踏まえ内容の見直しを行ない、次年度につなげる。</p>

令和8年度 多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画一覧表
(観光振興連携活動)

NO	①事業期間	②連携組織の名称	③構成自治体等	⑤事業名称	⑥交付申請額	⑦事業内容
2	R8～R10 (3年間) 1年目	小田急線沿線市 「花手水」事業実 行委員会	狛江市、多摩 市、相模原市(神 奈川県)	花手水を活用 した地域の回 遊性向上・魅 力発信事業	5,600,000	<p>【目的】 各自治体がそれぞれの域内の住民に向けて実施していた地域イベントや観光スポットへの誘客を、共通のコンテンツ(花手水)を介して連携して行うことで、各地域イベントや観光スポットへの相互誘客を図るとともに、スタンプラリーによる回遊性向上やプロモーション施策により、小田急線沿線市全体での地域の活性化を図る。</p> <p>【内容】 ① 「花手水」の設置 神社や仏閣の手水舎に花を浮かべる「花手水」を、イベント開催等にあわせて、最寄りの鉄道駅周辺と会場付近にスポット的に設置する。あわせて、設置場所の環境に応じたPOP・フォトパネル等も用意し、主に若年層や訪日外国人によるSNS発信を促進することで、誘客を図る。 ② デジタル・スタンプラリー 各地域の観光スポットや地域イベントへの誘客促進・事業PRにあわせて、地域内の回遊を促すインセンティブとして、デジタル・スタンプラリー(ノベルティ付き)を開催する。</p> <p>【実施場所、対象者、参加予定人数】 ・実施場所(予定) 狛江市(狛江駅・駅前ほこみち・泉龍寺) 多摩市(多摩センター駅・パルテノン大通り・多摩中央公園) 相模原市(相模大野駅・コリド一通り・ほか市内各駅周辺) ・実施期間 イベント期間等に応じて、各回につき3日～1週間程度。 ・対象者 大人から子供まで幅広い年代の方、訪日外国人の方</p> <p>【成果目標】 ① 小田急線沿線各市における相互誘客とインバウンドも含めた域外からの人流の増加として、最寄の鉄道駅の乗降者数や連携自治体間の相互移動者数を前年度比10%増を目指す。 ② 地域イベントや観光スポットへの来場者の増として、イベント来場者数を前年度比10%増を目指す。</p>
3	R8～R12 (5年間) 1年目	万葉大茶会実行 委員会	府中市、狛江 市、狛江市観光 協会	万葉大茶会	5,000,000	<p>【目的】 日本古来の文化である万葉集とお茶会を融合した新たな観光事業を開催し、万葉集の魅力を広く発信するとともに、この事業を契機として万葉歌碑など観光資源への関心を高め、両市の景勝地としての魅力向上と来訪者の増加を図ることを目的とする。</p> <p>【内容】 ・参加者向けに万葉衣装を貸与し、衣装を着用したパレードを実施する。 ・玉川碑(万葉歌碑)を巡りながら、春の風情とともに箏などの和楽器演奏を鑑賞し、茶会を楽しむ。 ・写真撮影用の衣装貸し出しや記念撮影の場を設ける。 ・茶席への自由参加形式で、文化体験を広く提供する。</p> <p>【実施場所、対象者、参加予定人数】 ・実施場所:多摩川河川敷等 ・対象者:年齢を問わず幅広い年代の方、訪日外国人観光客など ・参加予定人数:300人 ・来場者アンケートの実施</p> <p>【成果目標】 府中市及び狛江市において、万葉集の魅力を活用した文化体験・観光事業を実施することにより、地域に点在する万葉歌碑や古墳等の歴史資源に関心を持つ層の拡大を図り、多摩地域における文化的観光資源を巡る来訪者数の増加(概ね前回イベントの10%増)を目標とする。</p>

令和8年度 多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画一覧表
(観光振興連携活動)

NO	①事業期間	②連携組織の名称	③構成自治体等	⑤事業名称	⑥交付申請額	⑦事業内容
4	R8～R12 (5年間) 1年目	秋川流域観光推進協議会	あきる野市、日の出町、檜原村、あきる野市観光協会、日の出町観光協会、檜原村観光協会	秋川流域魅力発信プロジェクト	5,000,000	<p>【目的】 様々な人が集い、学び、憩うことができる場所として秋川流域の観光の玄関口である武蔵五日市駅前に整備した、秋川流域観光の拠点である「フレア五日市」を核とし、観光事業者や様々な団体と連携したイベント等を通じて、秋川流域の魅力を発信するとともに、秋川流域における回遊性、滞在性を更に高めることを目的とする。</p> <p>【内容】 フレア五日市と秋川流域内で開催されているイベントが連携し、継続的に年15回以上のイベントを実施する。また、HPやSNSを活用してイベントを広く発信することで、フレア五日市及び秋川流域3市町村のブランド力を向上させ、観光客を含めた来訪者の増加や秋川流域の活性化を目指す。</p> <p>【実施場所、対象者、参加予定人数】 ・実施場所:フレア五日市(あきる野市館谷台26番1号) ・対象者:年齢を問わず幅広い年代の方、訪日外国人観光客など ・参加予定人数:イベント1回につき、100人×イベント年間15回=1,500人</p> <p>【成果目標】 ・年間イベント開催数15件以上 ・参加者満足度90%以上 ・「フレア五日市」来館者数:年間100,000人</p>
5	R7～R11 (5年間) 2年目	TOKYO サステナブルツーリズム連絡協議会	青梅市、あきる野市、奥多摩町、特定非営利活動法人リーボノートレイスジャパン	TOKYOサステナブルツーリズムプラットフォーム構築事業	4,500,000	<p>●事業内容及び目標</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 企業向け研修ツアーの企画 ・モニターツアーの実施 ・アンケート実施 地域事業者、市民へのLNTの普及促進 ・地元事業者向けLNT講座の実施 ・市民向けLNT講座の実施 地元事業者認定制度の企画 ・専門家による勉強会 ・先進地域への視察 広報物 ・HP更新 ・SNSの運用 事務局運営 PDCAサイクルによる次年度反映 <p>【成果目標】 ・企業向けモニターツアー2回実施 ・地元事業者15事業者以上へのLNTの普及促進 ・市民30名以上へのLNTの普及促進 ・勉強会2回実施 ・視察1回実施</p> <p>●前年度の事業評価結果を今年度事業内容にどう反映させたか 令和7年9月26日時点で、連絡協議会の中で各種調査やLNTの普及促進手法などについて協議し、秋ごろに実施する調査内容等に反映した。</p>

令和8年度 多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画一覧表
(観光振興連携活動)

NO	①事業期間	②連携組織の名称	③構成自治体等	⑤事業名称	⑥交付申請額	⑦事業内容
6	R7～R11 (5年間) 2年目	タマリズムプロジェクト実行委員会	多摩市、稲城市、八王子市、日野市、町田市	タマリズムプロジェクト	5,000,000	<p>●事業内容及び目標</p> <p>【実施方法】 前年度同様、運営は企画、運営のノウハウのある京王観光株式会社に業務委託する。中小企業診断士によるアドバイスも活用し、より社会実装につなげていく取組を実施する。5市は、各市の起点となる実証フィールドの紹介・提供と、連携する企業や今までタマリズムプロジェクトに関わってきた企業、庁内関係者と学生をつなぐ。また、前年度に実施していたシンポジウムやマッチング会、ドラフト会議等の内容を見直し、参加学生・企業の満足度を向上させる。</p> <p>① (仮称)ドラフト会議 ・実施場所:調整中 ・実施日:調整中 ・対象者:大学、企業、自治体</p> <p>② 実証実験 実施期間:7月末～11月末 対象者:参加学生チーム</p> <p>③ (仮称)成果発表会 実施場所:調整中 実施日:調整中 対象者:大学、企業、自治体</p> <p>【成果目標】 ① 参加学生・企業満足度:80%以上 ② エリアの活動や自治体プロモーション数:50件 ③ 前年度企画の社会実装数:2件</p> <p>●前年度の事業評価結果を今年度事業内容にどう反映させたか 前年度において、「広域観光まちづくり」「各市の観光まちづくり」をテーマとして提示したことで、学生が主体的に異なる大学同士での実証実験を実施するなど、新たな広域連携の視点を活かした取組が生まれた。前年度のような学生主体の大学同士の繋がりや広域連携の手法が生まれるようシンポジウム、マッチング会の内容の見直しを図る。</p>

令和8年度 多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画一覧表
(観光振興連携活動)

NO	①事業期間	②連携組織の名称	③構成自治体等	⑤事業名称	⑥交付申請額	⑦事業内容
7	R6～R10 (5年間) 3年目	多摩地域インバウンドガイド連絡協議会	立川市、国立市、国分寺市、一般社団法人立川観光コンベンション協会、特定非営利活動法人国立市観光まちづくり協会、一般社団法人こくぶんじ観光まちづくり協会	多摩地域インバウンド受け入れ拡大のためのガイド人材養成・育成事業	6,500,000	<p>●事業内容及び目標</p> <p>【内容】 随時連絡協議会及び連絡会議の拡大 周辺自治体や関係団体に声かけし、構成団体を増やす</p> <p>4月～3月 ガイド募集 自治体がHPや広報、SNS等を通じて募集を行う。観光協会は協会会員などを通じて募集を行う。観光関連事業者にも周知協力を呼びかけ、幅広く周知する。</p> <p>4月～3月 ガイド研修 ガイド育成のためのマニュアル作成 よりハイレベルなガイド研修実施プログラムの実施</p> <p>4月～3月 登録ガイドを活用したツアー造成 下見・実踏・モニターツアーから販売へ向けた新たなツアー造成、及びガイド間でのツアー情報の共有</p> <p>4月～3月 ホテル、観光関連事業者へのガイド・ツアーのあっせん 多摩地域・区部のホテルや観光関連事業者へ、ガイドやツアーの周知啓発</p> <p>4月～11月頃 インフルエンサーの招聘・SNSの運用強化 インフルエンサーを招聘し、SNSを中心としたインバウンド獲得に向けたPRを行う 随時観光関連事業者への周知啓発 ホテルや旅行会社、地元飲食店などに本協議会の趣旨を説明し理解を求め協力を依頼する 旅行博出展 海外で開催される旅行博に出展し、インバウンド獲得に向けたPRを行う</p> <p>【成果目標】 ・20人以上のガイド候補者を発掘 ・ツアー販売用のWEBサイトを開発 ・1以上の旅行会社等へガイドをあっせんすること ・20以上の観光関連事業者へ周知啓発を行う ・宣伝用SNSの運用を開始すること</p> <p>●前年度の事業評価結果を今年度事業内容にどう反映させたか ・自走を見据えた本格的なツアー販売に向けて、SNSを活用して販売用WEBサイトのPRに注力する。 ・ツアー内容の充実のため、観光協会と協力しガイドのスキルアップ、磨き上げに注力する。 ・ツアー不成立が発生しづらい販売の方法を研究する。</p>

令和8年度 多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画一覧表
(観光振興連携活動)

NO	①事業期間	②連携組織の名称	③構成自治体等	⑤事業名称	⑥交付申請額	⑦事業内容
8	R6～R10 (5年間) 3年目	多摩北部都市広域行政圏協議会	小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市	多摩六都の魅力発掘・発信プロジェクト	5,500,000	<p>●事業内容及び目標</p> <p>【内容】</p> <p>○多摩六都の魅力を発信する動画の制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、多摩六都の紹介動画を制作する。業務委託は、動画制作と発信に関するアドバイザリー業務とし、前年度の表示回数等の分析結果を基に、多摩六都の認知度の向上や次年度以降の事業につなげていける仕掛けを作っていく。 <p>○イベント等を通じたシビックプライドの醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度に多摩六都の緑や名所、産業等の魅力を発信するイベントを地域内の公園で開催することとし、具体的な内容を検討する。 ・公園利用に関する調整を行う。 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画制作、イベント検討等には業務委託を活用する。 ・市民や農業・商工業などの地域の事業者をプロジェクト会議に加えて検討を進める。 <p>【成果目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇観光資源の発掘:10件 ◇プロジェクトとその関連Webページ等の表示件数:19,000件 ◇成果物(動画)を発信する。表示件数:1,000件 <p>●前年度の事業評価結果を今年度事業内容にどう反映させたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇情報発信ツール(協議会WEBサイト、X、Instagram、YouTube)ごとの表示回数や傾向を押さえ、発信方法の研究をすすめていくこととした。 ◇令和7年度に、動画制作に向けた市民向けワークショップを実施。そこに参加いただいた方に対し、今後も本事業に協力いただけるよう、情報の共有を行い、以降につなげるようにした。
9	R6～R10 (5年間) 3年目	福生・昭島発!地酒と深層地下水の魅力を広める協議会	福生市、昭島市、福生市観光協会、一般社団法人昭島観光まちづくり協会、株式会社グッドライフ多摩	福生・昭島発!地酒と深層地下水の魅力を広める事業	6,000,000	<p>●事業内容及び目標</p> <p>【内容】</p> <p>不特定多数の誘客促進、周遊のきっかけづくりとなるような事業を実施し、交流人口増を目指す。その際、アドバイザー(鉄道会社)にも協力を要請し、事業のコラボレーションを行う等、工夫をしていく。</p> <p>(1) 地域資源の磨き上げによる魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拝島駅を拠点として、福生や昭島への流入人口を増やすためのツーリズム販売を通じて得られたものを基に、ターゲットを拡充し拝島駅への流入人口を増加させる。 <p>(2) 若者の力を活用し福生・昭島の新たなファン層を獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地酒・深層地下水をキーワードとした若者によるアイデアソンによって、福生や昭島に訪れたいと思わせるような新たなアイデア出しをフィールドワークを踏まえたワークショップを通して行う。 <p>【成果目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを通じたキャンペーンを1本以上展開し、認知拡大を図る ・福生と昭島の周遊を促す企画1ルート以上の立案 <p>●前年度の事業評価結果を今年度事業内容にどう反映させたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拝島駅を拠点として、福生や昭島への流入人口を増やすためのツーリズム販売を通じて得られたものを基に、ターゲットを拡充し拝島駅への流入人口を増加させる取組を行う予定。 ・若者アイデアソンから得られた知見を事業に組み込む予定。

令和8年度 多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画一覧表
(観光振興連携活動)

NO	①事業期間	②連携組織の名称	③構成自治体等	⑤事業名称	⑥交付申請額	⑦事業内容
10	R5～R9 (5年間) 4年目	福生・羽村・瑞穂地域の魅力を結ぶプロジェクト協議会	福生市、羽村市、瑞穂町、福生市観光協会、一般社団法人羽村市観光協会、瑞穂町観光協会	福生・羽村・瑞穂地域の魅力を結ぶプロジェクト事業	3,500,000	<p>●事業内容及び目標</p> <p>【内容】</p> <p>①新規ツアーの開催 ・前年度生み出した新規コンテンツを盛り込んだツアーを開催 実施場所 福生市、羽村市、瑞穂町(場所の詳細については、協議会にて検討) 実施日 8月から10月 対象者 各市町担当者、観光協会、各市町における観光事業従事者等</p> <p>②システム構築及び管理体制の構築 ・ツアー予約や観光情報を発信するための専用サイトを構築する。 ・専用サイトの課題等について洗い出しを行い、翌年度以降の運用に活かす。 ・ツアー有料化の検討を行うなど、自走後の事業費や管理体制について検討を行う。</p> <p>③自走化できる組織形成に向けての協議 ・事業者・旅行会社等、事業の関係者にアンケート調査を行い、今後のニーズを探る。 ・構成団体においてアンケート調査結果を踏まえ、今後の取組について検討</p> <p>【成果目標】 ・新規コンテンツツアー延べ参加者数60名 ・ツアー参加者の満足度調査を行い、更なる磨き上げを行う。 ・自走化後の運営イメージの構築及び課題の整理</p> <p>●前年度の事業評価結果を今年度事業内容にどう反映させたか 前年度生み出した新規コンテンツを盛り込んだツアーを開催することで、これまでにはない体験コンテンツとする。 また、前年度検討を行った予約導線をもとに、新たにツアー予約、観光情報発信用サイトの構築を行う。</p>
11	R4～R8 (5年間) 5年目	北多摩縄文連合	調布市、東村山市、国分寺市、国立市、西東京市	北多摩縄文の里	2,664,511	<p>●事業内容及び目標</p> <p>【内容】 前年度と同様にパンフレット、デジタルスタンプラリー等を改良して実施。 紙のスタンプラリーと、デジタルスタンプラリーを併用し、引き続き、より多くの幅広い年代の参加者の増加を図る。 また、これまでの成果を参考に、縄文時代に関する5市共同講演会又は担当者(学芸員)報告会等を開催予定。</p> <p>【成果目標】 スタンプラリー参加者(2市以上を回った者)600名</p> <p>●前年度の事業評価結果を今年度事業内容にどう反映させたか 本事業も4年目でリピーターがいることや、前前年度から引き続き開催時期を夏休みからとすることで参加者が増えたこと、またデジタル版スタンプラリーの内容を充実させたことから、新規参加者の増加につながった。デジタルスタンプラリーのさらなる充実だけでなく、事業の周知へ広報活動を充実させることで、令和9年度以降の自走に向けて取り組んでいく。</p>